

東日本支部 2025年度活動報告

2026年3月5日 支部長 曾我行雄

1. はじめに

『ともに学び、ともに創る』の活動方針のもと、実務への応用展開を目指した研究開発だけでなく、これからVEに取り組む企業や個人の受け皿づくりにも力を入れています。東日本支部の部会活動は20年以上が経過しました。メンバーの高齢化（若手の参加が少ない）や固定化（新しい人が入ってこない、定着しない）の傾向がありましたが、高位資格取得者を除く初心者向けをうたった「VE情報交流部会」の設置により、VE初心者やVE推進部門初心者の参加が増加し、他の部会への移行が進んできました。2026年度も柔軟な部会運営と部会相互の連携を深め、情報や成果の共有・公開を進めていきます。

2. 今年度の取り組み

1) 部会構成と登録人数（2025年12月現在）

部会名	対象	人数
①VE情報交流部会	VE導入や新規活動を考えている方、これから担当される方	12名
②VE推進部会	VE活動の推進、人材育成・教育研修などに携わる方	32名
③マーケティング部会	マーケティングやVEに関心のある方（未経験者歓迎）	7名
④R&D部会	新しいVE手法の創造、VEの実践、研究開発・設計部門の方	22名
⑤ものづくり部会	サプライチェーン全般における「ものづくり」に携わる方	22名
⑥資材調達部会	調達の実務経験がある方（企業OBを含む）、VE推進部門の方	22名
⑦社会インフラ部会	製造・サービス・建設など、社会インフラ全般に携わる方	13名
		合計：130名

2) 部会メンバー向けアンケート（1月に実施、n=45）

- ①メンバー数はコロナ禍前の水準に戻ってきた
 - ・ 総数130名（部会平均で20名弱）
- ②出席率はおおむね高い水準
 - ・ テーマに連続性のある部会と一話完結型運営の部会、人数が平均より多い部会と少ない部会、などにより出席率の傾向が異なっているが、おおむね高い水準と言える。
- ③参加メリットは、情報・刺激・モチベーション…業務に活用も
 - ・ 「刺激を受けられた」「情報が得られた」「モチベーションが高まった」などの声が多い。
 - ・ 一方で、「業務に活用できる」「ノウハウを吸収」といった実務への効果の声もあり。
 - ・ 所属企業において、部会に継続参加できるだけの成果を求められることがある一方、短期的に成果を上げることは難しい側面もある。職場に遠慮して有休を取って参加する人もいる。
- ④高い満足度
 - ・ 「期待通り」「だいたい期待通り」で95%を占めた。
 - ・ 来年度の参加見通しでは「より積極的に」「今年度と同レベルで」で73%を占めたが、異動や職場事情で「不明」「難しい」が27%あった。
- ⑤所属している部会へのご意見・ご要望
 - ・ 主査・副主査の運営努力・ファシリテーション技量への感謝の声。
 - ・ 「闊達な意見交換」「相互の助言」「議題以外の情報交換」など、参加してよかった。

3) 活動報告会

各部会の取り組み状況と活動成果を紹介し、ノウハウの開示と認知度の向上、参加メンバーの拡大をはかる。会員に限定せず、東日本支部の活動に興味のある方や参加を検討している方すべてを対象に、2026年3月3日（火）13～16時オンラインで開催した。

4) 運営企画会議（主査会議）

支部長・副支部長・部会主査が参加し、前期：12月15日、後期：2月18日に開催した。部会の活動状況の共有やアンケート結果のフィードバックと課題への対応について協議するなどした。

3. 来年度計画

全員参加による部会運営で、VEを新たなステージに進めていきましょう！

- ともに学び、ともに創る -

- 現行の7部会体制を維持する
- 参加に不安・不明がある方には、まずは「VE情報交流部会」を入口にお勧めし、その後希望に合った部会を選択していただく
- 名古屋・浜松を拠点とする「中部・建設VE研究会」も全国区で募集する
- 会議方式は「オンライン」または「ハイブリッド」でフレキシブルに運営する
- 情報共有をさらに改善し（そのためのインフラ整備必要）、部会間交流を促進する

以 上